



社会を変えるための素養を。

カリキュラム委員長、萩谷昌己教授インタビュー

GCL プレゼンテーションコンペ

起業体験談「Leopard」連載第 3 回

GCL ランチタイム第 5 回

社会を変えるための素養を。

萩谷昌己教授インタビュー

ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）のカリキュラムは、GCLの3つの柱である「高度専門力」「社会先導力」「価値創造力」を身につけるための基盤を形作るために設計されています。特徴として挙げられるのは、演習やワークショップなどの実践的な講義が多く含まれることに加え、しっかりとした基礎的な素養を身に付ける「横串」の講義群が揃っていることです。理系の学生には文系の素養を、文系の学生には理系の素養を身に付けるための講義が用意されています。

基礎的な横串の講義を修士の間に履修してもらい、素養を身につけた後は、博士課程で社会イノベーションプロジェクトを実践し、成果を論文にまとめてもらうことになります。学術的に素晴らしい研究成果は、社会にイノベーションをもたらすものであり、その実現に向けたプロジェクトを期待しています。

いかにリーダーシップを発揮し、どう社会を変えていくか。GCLコース生には、ぜひこういったことを考えてほしいと思っていますし、先日のプレゼンコンペでもまさにこういったことが問われていました。

1年目である今年度は、多くの研究科と協力して、様々な講義を開講しました。来年度からは、コース生が自分に必要な知識を得るためにとるべき講義がどれか分かりやすいように改善します。講義の体系化を図り、「制度・政策」「経済・マネジメント」「情報科学技術」「社会先導力」「価値創造力」の5分類を設け、履修のモデルを提示していきます。また、ワークショップなども連携させて、より密度の高い講義を提供します。2年次に上がった学生にも、再度履修してほしいくらいの改善を行う予定です。

GCLコース生には、自ら社会を変革していくという意識、自分の専門を活かして社会をどう変えていくのかという意識を持ってほしいと考えています。GCLの幅広いカリキュラムの全体を俯瞰し、自分の問題意識がどこにあるのかを探してみてください。まだまだGCLには活用しきれていないリソースがたくさんあり、今後体系化して分かりやすく提示していくつもりではありますが、ぜひ自分から積極的に工夫して活用してほしいと思います。

（聞き手：金子和正、森友亮 撮影：須原宜史）



■ GCL プレゼンテーションコンペ

発表を真剣に聞く GCL 学生 (撮影・須原宜史)

12/8 (日) 10:50-18:05 に、「2013 年 GCL プレゼンテーションコンペティション」が開催され、2 年次への進級を希望するコース生 22 人が、1 年次での取り組みや今後の展望についてプレゼンテーションを行いました。

「高度専門力」「価値創造力」「社会先導力」の 3 つに焦点を当て、予め用意された課題に沿って、15 分ずつの発表が行われました。与えられた課題は下記の 6 項目です。

- What is GCL?
- Your contribution to GCL in 2013.
- Your potential for GCL.
- Your passion for GCL.
- Your commitment for GCL.
- Action plan

●発表者一覧

伊藤 萌子、榊原 理恵、岩尾 俊兵、赤崎 拓未、木戸 肩吾、小林 尚生、HUYNH NGOCAN、田中 義丸、山元 浩平、糸永 順子、施井 泰平、石川 寛朗、風間 正弘、笹渕 一宏、葛 杭麗、近藤 大嗣、茂木 裕、江本 駿、松原 由季、澁田 朋未、浦野 由平、山本 瑛美 (発表順)

研究課題の意義と目標をはじめ、社会人としての経歴や起業経験、デザインの作成や社会発信の取り組みなど、各自の持ち味が出た発表となり、これまでとこれからの GCL に対して様々な主張が行われました。評価のために立ち会った教員からも、研究内容を GCL のテーマであるソーシャル ICT にどう関わらせていくかや、GCL への情熱、博士課程に向けた研究としてどう具体化させていくかについてなど多くの質問が寄せられ、7 時間を超える長丁場ながら活発な議論が行われました。



各自の持ち味を生かした発表に対し活発な議論が行われた (撮影・須原宜史、森友亮)





夢は、アイデアを現実に行ける世界をつくること (撮影・森友亮)

◆組織が先か、会社が先か

資本金 30 万円で始まった Leopard 株式会社は（その後資本金 100 万円に変更されたが）、法律上のみ存在する会社から、人が何らかの目的のために集まる「組織」へと変貌を遂げた。

通常会社を作る場合、まず組織があってその組織を基に会社ができる。たとえば屋台から始まったラーメン屋が、店舗を持ち、アルバイトを雇い、やがてアルバイトが正社員になり、さらにその正社員がのれん分けをして独立するときに決済の簡便さ等から会社にする場合などがそのような例である。

このように組織から会社へという、いわば王道の起業をするには、特殊な才能か根気強い努力のどちらかが必要だ。たとえばラーメン屋の例でいえば美味しいラーメンを作るだけではだめで、ラーメンの原価を計算して資金を貯め、さらにアルバイトを雇えるくらいの売上を達成して店員を増やし、さらに売上を伸ばし、資金を基に新店舗を開き、といった繰り返しが必要になる。こうして会社が出来上がるまでには長い時間がかかり、その間起業家は全ての力を起業に集中させる必要がある。

ただし、特殊な才能がある場合は別である。たとえば先のラーメン屋の店主が鼻からラーメンをすすることができ、その能力で人を笑わせることができる。そしてその芸見たさに人が集まるとする。さらにその芸に感動した人が弟子入りを志願してくるとする。そうすると、お金を貯めてアルバイトを雇わずとも、店主の芸を盗むために集まった弟子たちが店員の代わりになる。このように人を引き付ける能力は組織作りの原動力となりうる。

しかし、僕には鼻からラーメンをすすすることも、根気よく起業だけに全ての力を使う余裕もなかった。そもそも GCL のプログラムの主眼はあくまで社会変革に役立つ高度専門家を育てる所にある。通常の起業家を育てたところで日本に小金持ちが数人増えるだけの効果しかない。だからこそ既存の博士課程をトップで修了するくらいの勉強と、起業なりプロジェクトなりを両立させる必要がある。そこで僕は会社という制度を先に作り、株を交付する等の手段を駆使し、組織を徐々に作っていった。会社を作る段階では何をビジネスにするのか、目的もあいまいだった。

◆非効率と不合理がない世界を

はじめに僕の夢の話から始まった。僕の夢は、アイデアのある人、発想のある人が何ものにも邪魔されることなく、アイデアを現実に行ける世界を作ることだった。これは生産者側からの記述だが、消費者側からすれば、面白いものがあふれ、好きなものを好きな時に買える世界を作ることでもある。このような世界のことを Leopard では「非効率と不合理がなくなった世界」と呼ぶ。余談だが、この話をトヨタ自動車と Google の管理職の方に別々の場所で話したとき、両者の反応が同じであったことに驚いた。その反応は「それこそうちの会社なんだ。良い会社はすべからくその発想を持ってははずだよ」というものであった。

こうして大体の目的は決まったものの、この後 Leopard の事業内容は四か月をかけ、SNS サイト⇒EC サイト⇒データ解析⇒電子カルテと変化していくことになる……。

(本文執筆・岩尾俊兵さん(経済学研究科 M1、Leopard 代表取締役パートナー))



第 5 回 GCL ランチタイムの様子 (撮影・後藤昂彦)

■ GCL ランチタイム

GCL の担当教員とコース所属学生の交流促進を目的とした昼食会「GCL ランチタイム」。今回は 11/29 (金) に行われた第 5 回の模様をお伝えします。

●第 5 回 中山 英樹 講師 (情報理工学系研究科 創造情報学専攻)
11 月 29 日 12:10-12:55

第 5 回の今回は、中山英樹先生にお越しいただき、コース生の石川寛朗さん、茂木裕さんとの昼食会を行いました。会では、主に中山先生の前職「Yahoo! Japan」でのご経験についての話題が中心となりました。

<参加した学生の皆さんの感想>

・石川寛朗さん (学際情報学府・M1)

今回は中山先生と、GCL プログラムや企業でのご経験などについて様々にお話することができました。先生は大学のほか企業も経験されており、今回は「先輩」としての貴重な経験談を伺うことが出来ました。

このような学生と先生の密接な連携により、プログラムの改善の他、学生が今後の進路を考えていく上での参考にもできると思います。今後、従来の「先生と学生」という枠を超えた交流はより重要になってくると思いました。

・茂木裕さん (公共政策大学院・M1)
年齢が近いからか、その気さくな性格からか、親近感をもって中山先生と会話できました。加えて、事前に議題がある程度共有されていたので、目的意識をもって対話に臨めました。

議題の中心は、先生が前職「Yahoo! JAPAN」で働いていたときの職場状況や働き方についてでした。新産業と位置付けられるウェブ業界における組織形態や経営が、理論的に描かれる特徴と実際的な状況の間でまだまだ乖離があると把握できたのは、僕にとっては大きな収穫でした。貴重な体験を聞かせてくれてありがとうございました。

中山先生、貴重なお時間をどうもありがとうございました！

それでは、次回もお楽しみに！

※ GCL ランチタイムへのご意見・ご要望などは、GCL 広報企画 pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp までお寄せください。

■ イベント告知

● グローバル・クリエイティブリーダー講義Ⅷ (トップリーダー論) 間下氏講演

日時：1月14日(火) 18:30-20:00

場所：工学部2号館3F電気系会議室1AB

講演者：間下直晃氏(株式会社ブイキューブ社長)

概要：昨年12/10に上場したV-cubeの間下社長の講演です。間下氏は慶応大学3年の時に起業し16年、36歳で上場を果たしました。V-cube社のテレビ会議サービスは、国内シェアトップであり、現在はアジアを中心とした海外に進出中です。

今回は、「トップリーダー論」受講生以外でも起業に興味を持っている学生の受講を許可します。ご参加お待ちしております。

● 2014/01/15 Global Design Lecture :

ITとこれからの夢、そして次世代リーダーへの期待

日時：1月15日(水) 16:40-18:10

場所：工学部2号館4階246講義室

担当教員：大和田尚孝(日経コンピュータ)

ゲストスピーカー：株式会社NTTデータ 取締役相談役 山下徹氏(元NTTデータ社長)

● 2014/01/22 Global Design Seminar :

ショッピングの未来 ~コネクテッドコマースとは~

日時：1月22日(水) 18:30-21:00

場所：東大本郷キャンパス内ものづくり経営研究センター5F

講演者：杉江知彦氏(Paypal Pte, Ltd)

◆ 「なめらかな社会とその敵」セミナー

対象者：修士課程以上の院生、教員、本を完読した学部生/卒業生

日時：2月1日(土) 13:00-19:00

(終了後、19:30頃より懇親会(参加費1,000円)を予定しています。)

場所：工学部2号館3F電気系会議室1

定員：60名

参加費：

在学生・教員：無料

卒業生：40歳以上 5,000円

39歳以下 2,000円

申込方法：要事前申込 下記QRコードよりフォームに記入



申込受付期間：1月30日(木)まで

概要：

「なめらかな社会とその敵」の著者である鈴木健氏による、6時間に渡る講義を開催します。一般向けのトークライブではなく、研究者向けの内容になりますのでご注意ください。

鈴木健氏の提案している伝播投資通貨PICSY、分人民主主義の原理から背景にある思想、そしてその展望について、参加者も交えて議論します。参加者は事前に「なめらかな社会とその敵」を読んでいることが望ましいです。

経済学、政治学、社会学、哲学などの人文学を専門とする方だけでなく、コンピュータ科学、生命科学、システム工学、ロボット工学など理工系の専門を持った方も、ぜひご参加ください。学部生から、博士課程の学生、卒業生、教員の方まで広く参加をお待ちしております。

本セミナーに関するお問い合わせ先：

GCL 広報企画チーム pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp



編集・発行：

情報理工学系研究科・GCL 広報企画

(森友亮(情報理工M2)、後藤昂彦(情報理工M1)、金子和正(工B3)、須原宜史(工学系D2))

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部8号館621号室 GCL事務局

E-mail: pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp